

2026 年度第 1 回学術講演会 2026 年 11 月 1 日（日）10：00～10：50



岩田 洋

日本歯科大学附属病院 放射線・病理診断科

**『見える人だけが気づく 2026
歯科画像に潜む偶発所見を見逃さない』**

<要旨>

歯科診療では、日常的にパノラマ X 線画像や歯科用コーンビーム CT（CBCT）が用いられていますが、これらの画像は主訴や検査目的に関連した所見を評価するだけでなく、撮影目的とは直接関係のない「偶発所見」を発見する機会にもなります。偶発所見には、経過観察でよいものから、追加検査や専門医療機関への紹介が必要となるものまで、さまざまな病態が含まれます。

一方、画像上の異常を見つけるためには、正常解剖や障害陰影を理解したうえで、画像全体を観察することが重要です。本講演では、当科で経験したパノラマ X 線画像および CBCT における偶発所見の症例を紹介し、見落としを防ぐための着眼点と、所見を発見した際の対応について解説します。

<略歴>

1996 年 日本歯科大学歯学部卒業

2000 年 日本歯科大学大学院歯学研究科修了 歯学博士

日本歯科大学歯学部 放射線学教室 助教

2003 年 日本歯科大学歯学部 歯科放射線学講座 講師

2012 年 日本歯科大学附属病院 放射線・病理診断科 講師

2017 年 日本歯科大学附属病院 放射線・病理診断科 科長／准教授



岡田 智雄

日本歯科大学附属病院 総合診療科/心療歯科診療センター

『難しい患者か？パシエントハラスメントか？
ーグレイゾーンの対応法ー』

＜要旨＞

2025 年 6 月に労働施策総合推進法が改正され、2026 年 10 月 1 日から事業主にカスタマーハラスメント（カスハラ）対策が義務化されました。医療機関も対象であり、患者の正当な苦情や要望を尊重しつつ、医療従事者を不当な言動から守る体制整備が求められています。

歯科医療現場では、患者の強い訴えや繰り返される要求がハラスメントに該当するのか、それとも対応が難しい患者（Difficult Patient）の特徴なのか、判断に迷う場面が少なくありません。特に、痛みや治療への不安、不信感、心理社会的背景などが関与する場合、両者の境界は必ずしも明確ではないことが多く、両者をどのように見分け、適切に対応するかは、歯科医療従事者にとって重要な課題です。

本講演では、ペイハラと Difficult Patient の違いを整理し、判断が難しいグレイゾーンについて歯科臨床の具体例を通して検討する予定です。患者の苦痛や訴えを尊重することと、医療従事者の安全や尊厳を守ることは対立するものではありません。応招義務に関する正しい理解を踏まえ、患者の権利を尊重しながら、医療従事者の安全と尊厳を守るための実践的な対応について考えたいと思います。

＜略歴＞

1984 年 日本歯科大学歯学部 卒業
1997 年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学教室第 2 講座 講師
2001 年 日本歯科大学附属病院 総合診療科 講師
心療歯科診療センターセンター長
2007 年 日本歯科大学附属病院総合診療科 准教授
2009 年 日本歯科大学附属病院総合診療科 教授（～現在）
2016 年 一般社団法人日本歯科心身医学会理事長（2018 年 7 月まで）

＜所属学会・認定資格等＞

日本歯科心身医学会 指導医・認定医
公認心理師

＜著書等＞

共訳：Okeson JP ベルの口腔顔面痛，クインテッセンス出版，1998.
共著：対応に困る患者さんたちスタッフと共有する、振り回されないためのポイントー、ヒョーロン・パブリッシャーズ、2017.